

# 交渉速報

J R 貨物労組本部業務部

2011年11月4日

No 8

会社：通年黒字が至上命題！黒字を目指して取り組む。  
組合：組合員の労苦に応える為に正当な評価を示すべき！

## ～年末手当第3回交渉報告～

中央本部は、本日10時より第3回年末手当交渉を行ない、要求の根拠を明らかにしました。

### 【要求の根拠として】

- ① 経済動向を背景とした物価上昇、医療費・厚生年金等保険料の増額、13年連続のベアゼロ等で所得が年々減少している。
- ② 今年度の大手企業の年末賞与・一時金の妥結状況が、組合員平均前年実績比 4.77%増となり率・額とも2年連続のプラスとなっている。
- ③ 会社は、異常時においても収入拡大に向けて努力している組合員に報いる義務がある。震災の復興や収入拡大は容易なことではないが、この難関に全社一丸となって向かうためにこれまでの低額回答でなく組合員の期待に応えるべきである。
- ④ 我々は2.6ヶ月の要求はこの困難な状況を乗り切っていくための会社の姿勢を問うている。どこかの団体の無謀な要求に対しても会社は毅然と対応するべきである。

以上4点を示し、この間の苦勞と切実な想いに対し、誠意ある回答を示すよう突きつけました。

### 【会社の考え方】

- ① 経済状況も厳しくこれからも不透明である。
- ② 中間決算は、昨年よりも悪い。通年黒字を至上命題として考えている。
- ③ 震災以降、勤務変更や迂回輸送に努めていることに感謝している。しかし現実を見て判断していく。
- ④ 今年度赤字だと銀行からの対応が厳しくなる。黒字を計上していくために収入拡大、経費削減に取り組む。
- ⑤ 貨物労組以外の要求の根拠に対しては趣旨説明のみであったので、コメント差し控えたいと返答した。

これに対して中央本部は、①会社の考え方は、コスト削減ありきで経営責任や収入確保等具体策が示されないまま社員のみがガマンしろとはならない。②上期の経営状況から経営陣の自助努力を示すこと。③今年度黒字確保に向けた具体策を示すこと。また営業体制強化に向けた本社の指導性を明らかにすることについて、次回交渉までに会社の姿勢を示すことを突き付け交渉を終了しました。

組合員のみなさん！会社は困難な状況においても黒字を出すための具体策を示さず、収入拡大よりコスト削減で乗り切ろうとしていることが今交渉で明らかになりました。厳しいからガマンでは済まされません。私達は度重なる異常時においても安全輸送に努力してきました。その努力に報いる義務が会社にあります。2.6ヶ月の要求は、震災においても貨物会社をメシの食える会社にしていこうと努力して実績を出してきました。その正当な評価を示すためであります。手当獲得の為に集会や要請行動等職場からの取り組みを要請します。中央本部はその最先頭で闘っていきます。

以上

次回、第4回年末手当交渉は、11月11日です。